函館高専

学校だより　第213号
～2022年3月号～

【目 次】

卒業・修了される皆さんへ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 1
卒業生へのメッセージ＆卒業生からのメッセージ ・・・・・・・・ p. 2
修了生へのメッセージ＆修了生からのメッセージ ・・・・・・・・ p. 7
留学生の言葉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.10
高専祭について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.12
国際寮について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.14
函館五稜乃蔵について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.16
各種大会・コンテストでの活動について ・・・・・・・・・・・・ p.18
退職される先生から ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.24
新任職員の紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.25
函館高専地域連携協力会の取り組みについて ・・・・・・・・・・ p.26

独立行政法人国立高等専門学校機構
函 館 工 業 高 等 専 門 学 校
National Institute of Technology (KOSEN), Hakodate College

卒業・修了される皆さんへ

本科卒業の皆さん，専攻科修了の皆さん，おめでとうございます。すべての教職員とともに，心よりお祝い申し上げます。

卒業・修了される皆さんにとってこの２年間は，新型コロナウイルスの世界的な感染症拡大というパンデミックの中でした。まだまだ終息の兆しを見せていませんが，後世に語り継がれる歴史的な時間を函館高専で過ごしました。授業も課外活動も日常生活も学生寮も，あらゆることに対し感染症対策が最優先でした。度重なるオンライン授業や分散登校など，さまざまな制約のもとで学生生活を送ることになりました。皆さんはよく頑張って，そして卒業・修了を迎えることができました。コロナ禍でも「学生の学びを止めない」，「高専教育の質を保証する」との学校の方針に基づき，この難局に立ち向かった先生方の努力を大いに労って頂きたいと思います。おかげで皆さんはオンライン授業を通してＩＣＴスキルそのものを学びました。また，人と直接向かい合う対面の重要性も再確認できました。それらは今後の高度な情報社会で生きる術となります。

大変な状況の中，皆さんは本科及び専攻科の教育課程を全てクリアし，函館工業高等専門学校を卒業・修了するわけです。中学卒業後，工学の専門教育を５年間一貫で学び，実践的かつ創造的技術者に教育するところが高等専門学校です。産業構造の変化やグローバル化の進展など，社会や経済の変遷を経てもなお，産業界のニーズに応える高度な技術者への期待はますます高まっています。函館高専は，全国レベルの高専教育をここ函館の地で実践してきた学校です。皆さんは，見事に学校の期待に応えてくれました。

皆さんは，これまで多くの人に支えられ，今日の卒業・修了を迎えたわけです。ご家族や支えてくれた周りの方への感謝を決して忘れないで下さい。また，たくさんの良い思い出を周りの友人と一緒に作ることができました。ここで得た友人は，かけがえのない一生の財産です。これからもお互いに高め合い，そして大切にして下さい。

皆さんにとっては，卒業・修了がスタートとなります。一所懸命勉強して身に付けた知識やスキルが，必ず皆さんの力になってくれます。函館高専で学んだことを誇りに思って下さい。どのような社会や環境に飛び込んでも，状況に応じて必要となる知識・能力を自ら修得し，社会を支える原動力となるよう，皆さんの活躍を大いに期待します。

函館工業高等専門学校長　　但　野　　茂

「卒業生へのメッセージ＆卒業生からのメッセージ」

『機械コース卒業生に贈る言葉』

第5学年生産システム工学科機械コース担任 近藤 司

５S-M 卒業生の皆さん，ご卒業おめでとうございます。

44 名中９名が女子学生という珍しく女性が多いクラスでした。日本は世界に遅れている男性社会です。多くの企業が女性の技術者を求めているという点において，このクラスは先進的といっても良いでしょう。

さて，進学・就職するにしても，５年間学んだ本校から別な道へ進みます。人間関係，仕事関係で挫折することがあるかもしれない。

次の言葉をおくります。「頑張らないけど，あきらめない」，これは私の恩師の言葉です。恩師は，若い時まじめで常に前向きな考えを持った人だったようです。しかし，若くして難病を患いしばらく入院することになりました。その後，半快になり新しい職場へ移ったのですが，以前のような積極的な行動はできない。無理をすると，またもとの病気になるかもしれない。そこで考えたのが，「頑張るのはやめよう」でも，「目標達成はあきらめないことにしよう」という考えに至りました。するといつかは目的を実現できるだろう。この矛盾に感じる言葉ですが，なかなか意味深いです。その恩師は，国立有名大学の教授にまでなりました。

実力以上のことは出来ません。本校で受けた教育に自信を持って社会で生きてください。

『在校生の皆さんへ』

第5学年生産システム工学科機械コース 大清水 空
千田 望美

こんにちは，５年生産システム工学科機械コースです。在校生の皆様へ，今年の 5S-M について少しご紹介したいとおもいます。

生産システム工学科機械コース５期生はとてもにぎやかなクラスでした。今年は高専祭も体育祭もありませんでしたが，クラス持ち前の明るい雰囲気のおかげで，コロナ禍でも楽しく過ごすことができました。

今年 5S-M は半分が進学と，勉強に意欲的な学生が多く，お互いを高め合える良いクラスでした。

卒研発表会が終わったかと思いきや，急に３月までオンライン授業になってしまい，少し悲しいです。在校生の皆様には，コロナ禍でどうなるかはわかりませんが，体育祭，学校祭，などの行事の際にはぜひ全力で楽しみ，思い出を作ってもらいたいです。いつ学生生活が終わっても良いように後悔の残らないようにめいっぱい楽しんでください。

５年間高専で過ごしましたが，大切なことは考えすぎないことです。自分が想定しているよりも物事は簡単に進み，困ったことがあればみんなが助けてくれます。おそらく，卒業したらこのようなことはないです。自分が今過ごしている環境がとても恵まれていることを自覚し，深く考えすぎないでください。特に，機械コースには親身になって話を聞いてくださる先生方が沢山います。困ったり，息詰まったりした時は周りに助けを求めることを忘れないでください。そして，残りの学生生活を楽しんでください！

『贈る言葉「その製品を愛するように，相手の人にもそれ以上に接すれば何か変わる（意訳）」』

第5学年生産システム工学科電気電子コース担任 山田 一雅

5S-E の皆様，ご卒業おめでとうございます。またご家族の皆様おめでとうございます。丸５年間の日々を見守られて，今日この卒業の日を迎えられたことはご家族にとってもひとしおと存じます。

担任の思い出の一番は札幌・伊達・北斗の見学１泊旅行で，快晴の有珠山バック。思い出ずっとずっと忘れない空（歌詞引用），です。

さて「はなむけ」の言葉を上の出典引用をもって，卒業生に贈ります。皆さんに伝わる良い言葉です。1337 年からおよそ 100 年間，英仏百年戦争が繰り広げられイギリスがフランスに侵入。フランスの滅亡の危機が迫る中，一人の少女が祖国のために立ち上がった。少女の名前は，ジャンヌダルク。わかりやすいオマージュ作品として，累計 6,000 万部海外まで売り上げの「牧野つくし」物語。学園コメディーで主人公 18 歳つくしが，コンピュータ部品の会社が小さいというだけで全く相手にされないと困っている社長さんに贈った言葉がこれです。彼女の言葉の象徴は，正面突破の人生です。困難な中でも真心に助けられ，友人達と成長して行きます。どんな時でもまっすぐにパワフルに生きてゆく主人公つくしの姿が印象的です。じつは助ける側があって主人公は輝くのです。ルーブル美術館のパリ市内で，大々的に飾られているジャンヌダルクと場面はちがいますが，人々はその一生懸命の生きざまに心惹かれて助けたいと思えます。同じ気持ち，全力で支えたいと願いを込める一人一人が 5S-E のご家族の皆さん，教職員でもあったと思います。皆さんの顔つきがどんどん変わる，微力ながら 2019 年から全員の出欠調査を「最後までできた」ので，今日の担任の仕事納めに感謝しかありません。

勉強終わって帰り道，夜空の天の川，赤い光も滲んだそれらも動く人工衛星も，月が満ち欠けで綺麗に変わる姿も，地方だったので毎日見られた子供のころと，今も鮮度抜群，全く同じ，当該クラスはかけがえのない毎日を与えてくれました。どうもありがとう。もう出欠はとれませんが，皆さんのこれからの人生を函館の戸倉の丘からこれからは応援しています。健康に留意し，もし困ったときは，遠慮なく連絡してください。Cheers!

『5年間の学校生活』

第5学年生産システム工学科電気電子コース 尾崎 海大

高専に入学してあっという間の５年間でした。入学したての頃は女子の少なさやメガネ率の高さに驚いていましたが，そんな高専にもあっという間に慣れ，今では立派な高専生です。

私は高専生には珍しくバリバリ部活をやっていた人間で，ハンドボール部と，４年生からはラグビー部にも入部していました。実は天文部にも所属しているのですが２回しか顔を出したことがありません。天文部の皆さんすみません。高専で部活をやっている人はそこまで多くないとは思うのですが，私は部活をやっていてとてもよかったなと感じています。本当に多くの大切な仲間に出会うことができましたし，正直私はクラスのみんなとあまり仲良くないので毎日部活に行って仲間と会うのが楽しみでした。それにハンドボール部とラグビー部は全道で１回勝てば全国なので，いろんなところに行けます。私は沖縄にも行きました。まだ部活をやっていない人は部活をやった方がいいです。どの部活に入ればいいかわからない人は人数不足で困っているのでラグビー部に入部してください。

高専では勉強なんかよりもたくさん遊んだほうがいいと思います。高専の５年間は皆さんが想像しているより遥かに短いです。貴重な時間を思いっきり楽しんでください。

『情報コース卒業生に贈る言葉』

第5学年生産システム工学科情報コース担任　今野　慎介

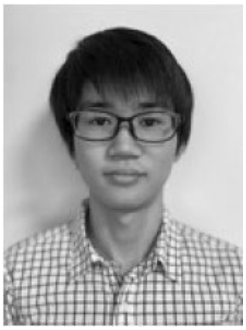
生産システム工学科情報コース５期生の皆さん，ご卒業おめでとうございます。穏和で，協力的な皆さんのおかげもあり，最後まで楽しく担任を務めることができました。５年生も残り少しの時期にオミクロン株が大流行し，２月末を待たずして皆さんの学校での生活が終わってしまったことが，担任としては残念に思います。

さて，新型コロナウィルスが流行する前は，こんな世の中になると考えていた人は，殆どいなかったと思います。しかしながら，世界中の人々が協力し合い，少しずつではありますが，良い方向に向けて進んでいるのではないかとも思います。皆さんは，これから新しい世界へ飛び込みますから，目の前に壁が立ちはだかったり，予想外のトラブルが起こったりすることがあります。その中には，尻込みをしたり，自分の手に負えず，心が折れそうになったりすることもあると思います。そんな時は一人で抱え込まず，周囲の人に相談して欲しいと思います。周囲の人を頼り，協力し合う中で少しずつ成長し，いつか周囲の人を助けられる存在になれば良いのではないかと思います。

新しい環境では，沢山の出来事が皆さんを待っています。明るい希望と大らかな気持ちを持って，新たな旅路を進んでください。

『今を大事に』

第5学年生産システム工学科情報コース　鈴木　大器



４，５年生は新型コロナウイルスの影響で数々の行事が中止になり，数少ない思い出作りの機会を失ったり，対面授業ではなくオンライン授業へと形態が変わったりと，環境が目まぐるしく変わる高専生活でした。５年生の今では，周りに沢山の良い友達がいて，毎日を楽しく過ごしています。

その様に感じる日々ですが，友人たちと対面しながら会話できるのも残り数か月となってしまい，卒業の嬉しさと同時に別れの悲しさも感じます。僕の所属する情報コースの中には様々な分野で活躍するクラスメイトがいますが，高専を卒業してしまえば，自身とは，地理的に遠く離れた就職先や進学先となっている人もいますから，高専生活での交流を最後にその人とは二度と会わないという事は起こりえると思っています。また，今のような世の中が続けば，会いたいと思っても会えないようなケースも起こりえます。ですから，在校生の皆さんには仲良くしている友人はもちろん，話したことのない人とも交流してたくさん話したり，テスト結果や最終成績に一喜一憂したりして「今この瞬間」を満喫してほしいと思います。

高専という同じ志を持った同志がいるこの環境に感謝し，将来の夢を叶えられるように羽ばたいていってください。

『20 年後の皆さんへ』

第5学年物質環境工学科担任 松永 智子

皆さん，この度はご卒業おめでとうございます。皆さんとは，1 年生の時から副担任として関わらせてもらってきました。15 歳だった皆さんが学問を志し，「あっ」という間に 20 歳となって卒業を迎えていること，とても喜ばしく思います。

その間に，実は私も 40 歳を迎えていました。孔子が四十にして迷わず，と言った「不惑」です。さてここで，20 年後の不惑を迎えた皆さんに質問を。「今，心に迷うことはありますか？」

こんな説があるようです。孔子の生きた時代に「心」という言葉はなかった。だから本当は「四十而不或」，すなわち「40 歳になって自分（の人生・可能性）を限定しない」，と，孔子は言っていたのではないか（安田登 著「身体感覚で「論語」を読みなおす。」）。

大人が深まるにつれて，これに従えば間違いない，教科書的なことはどんどんなくなっていきます。そして，自分の正解は自分の中にしかないことを悟って，不安でジタバタ奔走する。でも，それが意外と嫌ではないんですよね。きっと 20 年後，20 歳の心のまま，出来るようになったことは数知れず，な，無敵な皆さんがそこにいるんじゃないでしょうか。不或というパワーで，さらに先へ！その時にも，皆さんの活躍を心から応援していますね！

『もし誰かに刺さったら嬉しい，伝えたいこと 』

第5学年物質環境工学科 池田 知尋

私の高専生活を思い返したとき，それは全て勉強と真面目の上に成り立っていたように感じます。堅苦しい程に課題や試験に全てを賭けていたし，学校のルールにもかなり忠実だったと思います。反対に，そうではない学生に対してはずいぶん嫌悪を抱いていた自覚があります。大人になれず事あるごとに物質棟の研究室前で愚痴を吐いた私の話を聞き，助言を下さった先生方には感謝してもしきれません。

長い高専生活の中で，知識や技能以外に私は“人の数だけ「正しい」があり，それを否定する術は誰も持っていないこと”を学びました。過去の私は勉強していない学生に対して何で勉強しないのだろうと疑問を持っていましたが，学生生活の中で勉強を優先順位にどう位置付けるかは個人の自由でした（赤点は取らないことを前提として）。逆にそんな勉強ばっかでつまらなそうと何度も言われましたが，点数や席次を追うことは私にとってすごく有意義で楽しいものでした。

様々な人が入り混じるこの高専で，自分と違う考えを否定せずにそういうものもあるんだな，で止めてみて欲しいです。それと同時に，自分の気持ちも大切にして欲しい。少なくとも私は，それだけですごく“ここ”での呼吸がしやすくなった気がしました。

『祝・卒業』

第5学年社会基盤工学科担任 小玉 齊明

５年生の皆さん，卒業おめでとうございます。この２年，多くのことが変則的になる中で，数々の困難を克服し無事に卒業を迎えることができたことを，心からお祝い申し上げます。

社会基盤工学科の 32 人の皆さん，いよいよ４月から新たな世界への旅立ちですね。思えば，勉強はできるけど，コミュニケーションは苦手，休み時間はゲームで掃除は人任せ，時間にルーズ，でも大きな問題は起こさない。担任を持った３年生の時からそんなクラスでした。特に最後の２年間は学外実習，見学旅行，就職活動と，残念ながらコロナの影響を受け続け，その極めつけが卒研発表会前日にオンライン発表が決まるという不運でした。しかし，さすが鍛え抜かれた５Z の皆さん，全員が冷静沈着に対応し，立派な発表をしてくれたこと，担任として初めて頼もしく感じました。

これからしばらくは，比較的穏やかな高専での学生生活から一転，刺激的な毎日が待ち受けていることと思います。人生で一度きりの 20 代前半，これから数年間で得る経験が，自分の人生においてもかけがえのないものになると思います。大いに楽しみつつ真剣に，学び，悩み，着実に歩んでくれることを願っています。

『卒業にあたって』

第5学年社会基盤工学科 笹森 遼多

瞬く間に５年が過ぎた。振り返ると，入学当初はクラスに知り合いが１人もいなくて腹の底にこたえる寂寞に耐える日々を過ごしていた気がする。部活や委員会に所属せず，アルバイトもせずに特に華やかな青春を送らずに，実験レポート，勉強，設計製図に追われる日々を過ごしていた。けれども楽しくなかったわけじゃない。５年間の高専生活はとても充実していた。そんな私がここまでこれたのはこれまで支えてくださった先生方，家族，友人のおかげであり，感謝の気持ちでいっぱいだ。本当にありがとうございました。

高専生活で人との関わりの重要性に気がついた。多くの人と関わり，様々な価値観や考え方に触れることで新たな視野が得られ，学ぶことも多かった。これから先の人生ではより重要になってくる。物事の多くは１人で完結できることが少なく，常に人の関わりがあるのは一般的だと思う。だからこそ高専では１人だったらここまで来れなかったと思うし，たくさんの人に支えられてきたから今の自分がある。

最後に，在校生に一つアドバイスをするとしたら，進路選択には早めに取り組んだ方がいいということだ。進学の人も就職の人も取り組むのに遅すぎることはあっても，早すぎるなんてことは無いと思うから，自分の将来のことはどうかたっぷり時間を使って考え，後悔の無い選択をしてほしい。

「修了生へのメッセージ＆修了生からのメッセージ」

『生産システム工学専攻修了生に贈る言葉』

専攻科第2学年 生産システム工学専攻 連絡担当教員 本村 真治

専攻科生産システム工学専攻 18 期生の皆さん,修了おめでとうございます。このメッセージは 2022 年２月１日(火)の夜に書いています。本日は特別研究Ⅱの発表会でした。皆さん，素晴らしい発表で感激しました。中学を卒業し本校へ入学したばかりの皆さんの顔を思い浮かべ，また，ここ数年の皆さんの並々ならぬ苦労を振り返り，よくもまあここまで立派に成長したものだと，涙が出てきそうなくらい感動しました。指導教員はもちろん，皆さんを支えてくれたご家族，友人，多くの先生方，事務の方々など，お世話になったすべての人に感謝の気持ちを素直に伝えてほしいです。

さて，2030 年まであと８年，2050 年までは 28 年です。これが何の年なのか，皆さんは十分に理解していると思います。まさに今，時代が大きく変わろうとしている今このときに，皆さんは函館高専を巣立つことになります。技術者として果たすべき役割をしっかり意識し，社会に貢献してください。変革のときこそ技術者として大きな仕事を成し遂げるチャンスです。大いに期待しています。

最後に，皆さんのご健康とご多幸，ご活躍を心から祈っております。いつでも気軽に母校にお立ち寄りいただき，近況をお聞かせください。楽しみにしております。

『高専生活を振り返って ：)』

第2学年生産システム工学専攻 荒町 陸

本科・専攻科時代を合わせて７年間もの間，函館高専へと通った。これは小学校よりも長い期間通ったということであり，僕が本科に入学した時に生まれた子供が今小学校１年生になっていると言い換えると時間の長さがうかがえることだろう。本科から専攻科に進学した際にあまりにも環境に変化がなくいまだ自分がぴちぴちの 10 代だと勘違いをしてしまうことがある。本科生時代には今はなくなってしまったロボティクス履修コースと呼ばれるコースにてロボット関連の知識を身に着け，専攻科では本科で身に着けた知識のより深淵に触れることとなった。専攻科１年次にコロナが流行したこともあり，前期はオンライン授業が基本となり，自分たちや先生方が不慣れな形態での授業だったが多くの知識を身に着けることができた。専攻科に進んでよかったことがあったのかはわからないが専攻科に進んでいなければ今の自分はなかっただろう。本科では担任，専攻科では連絡担当教員を担当してくださった本村先生，本科５年から研究の指導教員をしてくださった浜先生，様々な知識を授けてくださった先生方に感謝を。No.116 は僕に感謝をください。さようなら函館高専，さようなら函館，また逢う日まで。

『専攻科修了 おめでとうございます』

専攻科第2学年 物質環境工学専攻 連絡担当教員 宇月原 貴光

専攻科修了の皆様ならびに保護者の皆様，おめでとうございます。７年間通った函館高専からの卒業となりますが，専攻科へ入学した 2020 年４月から 2022 年３月の修了まで新型コロナウイルス感染症の影響を受けた 2 年間でしたので，通常とは異なることが多くあり色々と苦労するところがあったかと思います。そのなかでも，各自が一生懸命，明るく前向きに取り組んでくれていました。

4 月から進学や就職という輝く未来が待っています。皆さんにとっては卒業がスタートです。高専で得た知識や技術をベースに大学院や企業で益々成長し活躍していくことを祈ります。これからの世界は変化の激しい予測困難な時代です。状況に応じて必要な能力を修得してください。また，長い人生のなかでは，様々な困難が待ち受けています。そのような時も前向きに考え立ち向かっていってください。

最後に皆さんの今後のご活躍を心からお祈り申しあげつつ，成長した皆が母校に立ち寄って元気な姿を見せてくれることを待っています。

『高専手帳は初耳です』

第2学年物質環境工学専攻 木村 幸乃

私が専攻科に入学したときは新型コロナウイルスが流行し始めた時期で，使ったことのない Teams によるリモート授業に戸惑い，実験や研究もどうなってしまうのかと思いましたが，意外と何とかなりました。これは本当に先生方のおかげです。授業を受けて空き時間に研究や PBL の実験を行い，さらに就職活動もしなければならない忙しい学生生活でした。リモート授業ではパソコンが購入してから５年経っているせいかインターネットに繋がらず焦ったり，PBL では 100 MB を超える巨大なパワーポイントが出来上がってしまったり，英語で先生とチャットのやり取りをしたり…と色々なことがありました。

また，この学年の物質環境工学専攻の学生は私含め２人しかいません。そのため，学生が２人しかいない授業もあり，廃校寸前の小学校のようでした。それでも先生と私たち学生で楽しい授業になったかなと思います。新型コロナウイルスが蔓延する状況下でも，このように充実した学生生活を送れて良かったです。専攻科で学んだことが多く，成長できたと思っています。あっという間でしたが，とても凝縮された２年間でした。高専生活として捉えると７年間という長い時間になりますが，大変お世話になりました。

『専攻科修了 おめでとうございます！』

専攻科第2学年 社会基盤工学専攻 連絡担当教員 菊池 幸恵

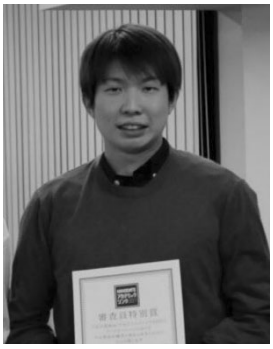
専攻科修了生の皆様ならびに保護者の皆様，修了おめでとうございます。

社会基盤工学専攻第３期生として，いろいろと大変な思いや新しいこともチャレンジしつつ，全員が一生懸命に取り組んできたと思います。特に，専攻科生のこの２年間はコロナ禍のまっただ中で，いろいろな制限を強いられた期間だったと思います。そのような中，皆さんは真摯に学業に対して向き合っていたと思います。２年間連絡担当教員として，皆さんの成長をそばで見守ることができたことを心から嬉しく思います。

これから，大学院進学でさらに学問に打ち込む人や企業に就職して社会に羽ばたく人，それぞれの進路があります。君たちは専攻の授業やインターンシップ，特別研究，PBL 授業や学会発表などを乗り越えてきました。これは本当に誇るべきことなのです。この専攻科で培った知識だけではなく経験や度胸は，これからの未来を切り開くためにとても重要なことです。でも，自分自身だけで身につけたものではありません。保護者の皆様や本校教職員，そして本科や専攻科の仲間たち，他にもたくさんの人たちに支えられてきたと思います。そのことを忘れずに常に感謝の気持ちを持って，さらにたくましくしっかりと羽ばたいてほしいと心から願っています。

『高専，そして専攻科という選択』

第2学年社会基盤工学専攻 齋藤 翔大



長い高専生活の中で，もし普通高校に通っていたら，大学に入っていたら，と想像することは何度もありました。とくに高専に不満があった訳ではありませんが，中学の頃の同級生と会えば，少し羨ましく思うこともあります。

しかし，入学から７年の時を経た今では，あらゆる選択肢の中から高専を選んだ 15 歳の自分に感謝したいくらいに思います。当時の私は，ただ家から歩いて通える，それだけで高専を選びましたが，まったく正しい選択だったようです。友達が大学受験に勤しみ苦しんでいる中でも，専門の勉強に打ち込める高専の環境は恵まれており，経験と専門性を追求することができました。

そして専攻科も同様に，ただ推薦で入れるくらいの理由で進学しましたが，これも良い選択でした。本科と合わせて３年もの間，研究活動に没頭できるというのは他の選択では考えられなく，専攻科ならではの相当充実した日々を送ることができました。

この長かった７年間が本当に良いものであったかは，10 年，20 年たたないとわからないのかもしれませんが，今は，自分がとってきた選択に大いに満足しています。ただ，もし 15 歳に突然戻れたら，青春を夢見て普通高校という選択をとります。

『留学生の言葉』

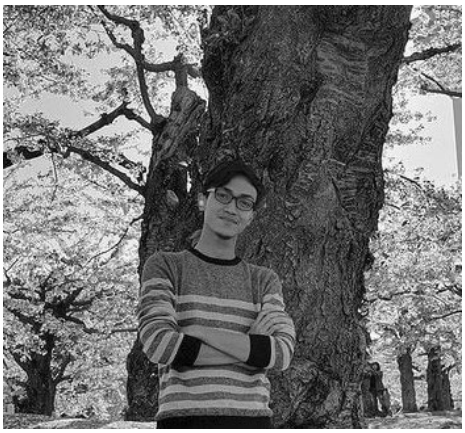
◎第５学年生産システム工学科情報コース　アフィク

こんにちは。マレーシア出身のアフィクと申します。

この３年間はとても楽しく，初めて日本に来たのが昨日のことのように感じています。函館高専では，先生方や友達から沢山のことを学び，経験することができました。３年生の時,私は新しいことに挑戦するのがとても怖かったのですが，時間が経つにつれて，私の不安はすべて新しいことに挑戦しないための言い訳に過ぎないということに気づきました。日本語はとても難しいと感じますが，友達や先生と言葉の障壁なくコミュニケーションできることは，とても価値のあることだと思います。

これから先，私たちはさまざまな困難や苦難に直面するでしょうが，それはすべて「人生」という旅路の小さな障害にすぎません。転んでもあきらめず，勇気と自信をもって立ち上がり，今まで乗り越えてきたことに誇りを持ってください。

◎第５学年生産システム工学科情報コース　アリフ



この１年を振り返って，学校の関係者の皆様に大変お世話になりました。留学の日々を支援してくださった皆様に感謝します。

また，新型コロナウイルスの蔓延を防ぎ，すべての学生，特に外国人留学生の安全を守るために学校が行ってきた努力も賞賛したいと思います。このような大変な時期ではありますが，皆様が安全に過ごせるように願っています。

日本に留学し，日本語の授業を受けて日本の文化や習慣を体験することが出来ました。分からないことがあっても，優しく教えてくれる友達ができたことが，一番，幸いな事であったと思います。学校生活に慣れてからは，３年間は，あっという間に過ぎていきました。今，振り返ってみると思い出もたくさんできました。自分自身も成長もできて，本当に感謝しています。

◎第５学年社会基盤工学科　カズ

初めて函館高専に来たときは不安しかなくて，クラスメートとの年齢差や日本語は自信がありませんでした。しかし，クラスメート，留学生，先生たちが，分からないことを優しく説明してくれたおかげで函館に早く慣れることができました。

新型コロナウイルスの影響で大変なときもありましたが，この３年間で成長もできて一生記憶に残るたくさん貴重な思い出ができたと思います。クラスメートが話しかけてくれたり，遊びに誘ったりしてくれて本当にありがたかったです。また，担任の先生をはじめ，高専の先生と事務の方々がいつも助けてくれて皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。３年間お世話になりました！

高専祭について

『高専祭を開催 ～ニューノーマルにおける学校行事の模索～』

学生主事 一般系 教授 下郡 啓夫

2021 年 11 月 6 日，7 日に高専祭を開催いたしました。今年度高専祭のテーマは『月』。「新型コロナウイルスの影響で大変な年でしたが，月が欠けている状態から満ちていくように苦難の後には幸福があるという希望を皆さんにこの行事を通して持ってほしい」（学生会高専祭ＨＰの原文をそのまま引用）という願いが込められたものでした。この願いを学生会がどのように体現しようとしたのか，この紙面を借りて，経緯とともに，少し触れさせていただきたいと思います。

今年度前期の学生会関連の行事は，昨年度に引き続き，新型コロナウイルス感染症感染拡大のあおりを大きく受けるものとなりました。実際，制約条件の中での新入生歓迎会実施から始まり，体育祭はやむなく中止と，学生会はもちろん，学生のみなさんにとって，満足いくには程遠いものだったと思います。

そんな上記の流れを受けての高専祭でしたので，例年と同じ形でぜひ実施したい，みなさんがそう望んでいたと思います。しかし，結局ここでも新型コロナウイルス感染症の影響を受け，延期かつ感染対策を講じての実施に舵を切ることとなりました。この舵取りに伴い，保護者の方はもちろん，学外の方々を入れることができない，模擬店等の実施も難しい，そのようなさまざまな課題を抱えることになった学生会の方々は，どのようなものを学生のみなさんに提供できるのか，ほんとに苦心しておりました。「高専祭の質を下げないようにするには，どういう方法がよりよいのか」「来年度以降のことも考え，これからもできる開催方法とは」コロナ禍の高専祭をどう作るかだけでなく，その先を見据えて話し合いをしていたのが実際です。

なかなか光が見えない中ではありましたが，学生会の方々は最終的に「従来の実施内容に，新たな可能性を見出す」「全学年に何かしらの活動を提供する」という２つの点に活路を見出しました。具体的には，前者は，学科展示について，学校紹介の一環として中学生向けに行っていたものを，学科選択を控えている本科１年の学生の方々，学科配属が終わるも，今後どのような専門の道を模索するのか，志向する本科２年の方々を対象に実施する，というものです。また，後者は，従来本科１～３年の方々が活動主体として高専祭になかなか参加しづらかったところを，コンテストという新企画を作り，クラス活動の場を提供する，また前期に中止になった体育祭を学年単位で実施するというものです。この体育祭の実施は，昨年度，今年度と２年連続に中止となった中で，体育祭実行委員会が担うべき役割・内容を次年度以降に伝承していくという側面も検討していたのが実際です。

この高専祭の新たなコンセプトと新企画に対して，実際形にする学生・教員の方々は，正直不安の中にあったと思います。また，全学年の学生を活動主体として提供した体育祭も新規性という点では乏しく，このタイミングでやる必要性があったのか，という疑問点もあったかと思います。

そのような側面があった一方で，このコロナ禍でただただ耐える，我慢するのではなく，この状況そのものを学生たちの成長，クラス・学科の結束など，集団としての新たな可能性の発見や成果につながっていた事実もありました。朝 SHR 前や放課後を利用したクラス装飾の準備，実際の学科展示での，１・２

学年学生のみなさんと３・４学年の学生の交流の様子などに，新たな学校づくりの可能性の姿を見出したのが実際です。

今回の高専祭の実施を通して，ニューノーマルにおける学校行事の企画運営に大事な視座を得ることができたと思っています。それは，歴史的に定着した学校行事の在り方の見直しという点です。毎年やってきたから今年も，これでは，行事本来のねらいを十分に実現できていなかったかもしれません。しかし，多くの行事の意義を再考する余裕もなかったのが実際だったのではないでしょうか。今回の高専祭開催は，実施するか，代替はどうするか，そういった視点だけでなく，長く続けてきた行事の持つ意味を改めて考えるきっかけにもなったように思います。

今回，2021 年 12 月の学生会役員総選挙により新たに組織された学生会がその一歩を踏み出してくれていました。2022 年２月 22 日の冬季スポーツ大会の実施内容の決定に向け，学生のみなさんの声を聴くという段階を踏むというものです。コロナ禍だからこそ，学校生活にも閉塞感を感じやすい状況で，学生のみなさんが主体的にできる活動づくりを，そういった思いを形にしたものです。残念ながら，まん延防止等重点措置の学校対応に伴い，中止になりましたが，ニューノーマルにおける高専行事づくりの萌芽は確実に見られます。その１つ１つの芽生えを大事に育てていければと思います。

国際寮について

『国際寮竣工式を挙行しました』

国際コーディネーター　一般系 准教授　David Taquet

11 月 19 日，国際寮の竣工式が行われました。正式的な開寮は 2022 年４月ですが，現在 28 名（留学生 12 名，日本人 16 名）の学生が混住しています。国際感覚を養い，TOEIC500 点以上であれば，４年生からの高専学生は全員入寮可能です。この新しい国際寮の主な理念は，あらゆる国や宗教の学生が生活し，共有し，互いに学び合うことのできる，包括的で安全な国際的生活空間を創造することです。

今後，フランス，ベルギー，イタリア，シンガポールからの研修生を含め，新しい留学生を受け入れる予定です。彼らは日本語を全く話しませんので，全員が英語でコミュニケーションを図ろうとする理想的な環境となるでしょう。このような経験から学び，時間をかけてより良くしていくための素晴らしい機会です。寮には居住スペースだけでなく，グローバルセンターも含まれています。１階にあるこのスペースは，学生，職員，そして地域の方々など，誰でも利用することができます。このプロジェクトの大きな目的は，文化セミナーや語学クラス，ディスカッションなど，街へのアウトリーチ活動を行うことです。もっと知りたい学生は，ぜひご連絡ください。

国際寮生の声

◎生産システムエ学専攻１年　エ藤淳平

私は今年度から国際寮での生活を始めました。国際寮は今年度の９月から試験的にオープンし，現在は日本人学生 16 人留学生 12 人が暮らしています。６～７人を１ユニットとして１ユニットでシェアハウスをするような形で生活しています。春潮寮との大きな違いは家が近くても入ることができるというところです。国際寮は英語でのコミュニケーションを主としていて，英語の勉強や留学生との交流を望んでいれば誰でも入ることができます。

国際寮での生活で大変なことは掃除や自炊をする必要があることです。自分たちでユニット内の全てを掃除する必要がありこれまであまり掃除をしてこなかった学生はかなり苦戦していました。また，ご飯も自分たちで作る必要があり栄養のバランス，金銭的な心配など考えることは多くあります。国際寮では，これらのことを通して今後生活していくのに必要な生活力を養うと共に留学生と交流をすることができます。留学生との交流では国の文化差に驚かされることが多いです。料理の違いや国ごとイベントの話など留学生の話を聞いたり国際寮のメンバーでパーティーをしたりできます。

◎社会基盤工学科５年　カズ

今のところ，国際寮での生活は素晴らしい経験になっています。点呼がないだけでなく，比較的カジュアルで自由な雰囲気の中で生活することができるのです。寮生は５つのユニットに分かれ，それぞれに留学生と日本人学生が混在し，７人のシェアハウスのように一緒に生活しています。

また，バスルームやキッチンの共用スペースの掃除や共用物の購入も全員で行うため，チームワークやコミュニケーション能力を養うこともできて，個人的な課題としても扱いました。さらに，私は今年度卒業しますから，社会人としての練習にもなっています。

留学生として，日本語と英語の練習もでき，国際交流の機会が多いと思います。留学生同士や寮生の全員では，楽しいことも多く，以前より仲が良くなったように思います。料理をしたり，映画を見たり，別のユニットに行って話をしたり，ただ遊んだりしています。

私は国際寮での滞在が短いですが，いい思い出になります。これからも留学生をはじめ新しい寮生がたくさん来ると思うので，にぎやかな雰囲気を楽しみにしています。

～テープカットの様子～

～集合写真～

～工藤さんのスピーチ～

～カズさんのスピーチ～

函館五稜乃蔵について

『「函館五稜乃蔵」建設と函館高専醸造ラボでおこなうこと』

副校長（地域・企画担当）物質環境工学科　教授　小林 淳哉

2021 年 11 月に，これまで 54 年間日本酒の酒蔵がなかった函館に新しい酒蔵「函館五稜乃蔵」が誕生し，2022 年 1 月に函館市の米と水を使った正真正銘の函館の地酒「五稜」が発売されました。未成年の学生の皆さんにはピンとこないかもしれませんが，発売２日で函館市のすべての酒屋から在庫がなくなったことからも函館市民の待望感が伝わるのではないでしょうか。

この酒蔵の建設に至るまでには函館高専の日本酒開発に向けた研究，地元で活躍する函館高専 OB，さらには函館高専の教育と研究をサポートする目的の約 200 社の企業からなる「函館高専地域連携協力会」が一体になった約 15 年以上に及ぶ粘り強い活動があります。したがって，その思いが結集した「函館高専，函館高専 OB そして函館高専のサポート企業」の悲願の酒蔵なのです。

～函館五稜乃蔵全景～

この酒蔵の中には「函館高専醸造ラボ」が設けられています。酒蔵の中にラボがある高専・大学はなく，これが全国的に高い注目を集めているところです。

このラボを囲むようにして，酒の醸造場所が配置されており，醸造文化を担うこともできる人材教育や研究成果として実現していきます。

～初出荷された五稜～

函館高専醸造ラボでは，次のようなことを行います。

・美味しい酒を作ることができる酵母の探索
・酒造りの中で廃棄される酒粕や米のとぎ汁の有効活用
・酒の醸造や品質の確認に関係する装置・機器の設計
・函館五稜乃蔵ブランドの付随した商品開発（たとえば化粧品，食器，装飾品など）
・地域の発酵・醸造技術による発展のための活動拠点

こうした活動を通し，醸造学としての物質環境工学科だけではなく，総合的な工学人材の育成につなげます。

函館高専地域連携協力会では，独自に約 1,000 万円の寄付を集め，それを五稜乃蔵内に作る函館高専の醸造ラボ建設のために寄付いただいています。企業からもラボを通した教育や研究への期待感の高さがうかがえるでしょう。全国の高専のなかで唯一である「酒蔵を持つ高専」として，発酵・醸造研究に関する全国高専の

～醸造ラボにて研究～

拠点として機能していくことも進めます。

お酒が飲めない未成年であっても，色々と社会と繋がった教育の場になると考えています。たとえば，２年生ではすでに北斗市のマルメロの花の上にいた酵母でのパン開発なども進めています。今後は酒器のデザインなども行なっていく予定です。こういう活動を通して地域と繋がり「売れる商品とは？」というマーケティングの勉強にもつながるでしょう。

～醸造タンク～

学生の皆さんが 20 歳になったとき，就職先に持っていけるお酒がある，というのがありがたくなるのはもう少し先かもしれません。観光客が戻って来た時，美味しい食べ物と一緒に飲んでいるお酒が，函館高専の活動によってできた酒蔵から生み出されているというのは誇らしくないですか？

（なお，今後は吟醸酒，大吟醸酒など逐次醸造・販売していきます。）

各種大会・コンテストでの活動について

『全国で2番目にバスケが上手いチーム』

女子バスケットボール部主将　社会基盤工学科5年　落合 楓

コロナ禍での開催となった全国高専大会で女子バスケットボール部は決勝戦のコートに立つことができました。準優勝は貴重な経験となりました。新型コロナウイルスの影響で部活動休止や地区大会開催の見合わせ等予想もしていない事態に戸惑いましたが，地区大会優勝を目標に練習に励みました。練習時間の確保が難しく，部活動休止期間のブランクを痛感しながらの練習で地区大会優勝を勝ち取りました。地区大会優勝の次の目標は全国大会１回戦を突破し準決勝進出です。夏休み期間もできるだけ実戦形式で練習できるように顧問の先生方が他の学校に掛け合ってくださったり，朝から夜まで練習試合のみの日程だったチャレンジカップを三日間参加したりなど，全国大会をイメージした練習内容となり，試合形式での実践練習で全国大会への士気を高めていきました。そんな中，新型コロナウイルス感染者数の拡大により授業がオンラインになり全国大会の開催も延期となり，ついには中止が決定しました。全国大会中止となれば引退となる私は言葉では表せない様々な感情がこみ上げてきたのを覚えています。

新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向になり，全国大会開催の決定を聞いたときは複雑な心境でした。まだみんなとバスケットボールをプレーできるという嬉しさの反面，新型コロナウイルスの感染拡大により，再度中止するのではないか，全国大会への個々のモチベーションの差異が生じているのではないか，など不安要因は拭えませんでしたが，ひとりひとり個性を生かしたプレーができるように，ひとりひとりが練習の振り返りを行い，チームワークを向上させ，部員全員が目標に向き合うためにもミーティングを増やし全国大会に臨みました。大会会場では出入り口を１つに絞り，大会前２週間分の体温調査表の提出，検温など厳重な感染防止対策に新型コロナウイルスが及ぼす影響が計り知れないことを再認識しました。コロナ禍での開催は感染拡大の要因が多く例年通りの全国大会とは全くの別物で，大会開催の難しさを実感しました。体調を整える自己管理だけではなく，チームとして，地区代表として，高専生として何ができるのか考えるきっかけとなりました。いざ試合が始まり，終わってみれば目標達成に加えて，目標以上の成績に舞い上がりました。念願の準決勝では２年生の時の全国大会熊本大会での１回戦対戦校である松江高専との対戦でした。当時，全国大会のレベルの高さを体感し，悔しさよりも驚きが大きかったのを覚えています。そんな松江高専対戦は感慨深いです。さすがに決勝戦は優秀な選手ばかりの我が校でも一歩及ばずでしたが，次回の出場権獲得の糧となりました。３日間で仙台まで移動し，３試合をこなし，決勝を行った日に函館に戻るという過密なスケジュールではありましたが，2021 年の一番の思い出は全国高専大会一択と言える，貴重な経験となりました。

コロナ禍での全国大会出場では，バスケットボールのみならず，コミュニケーションの重要性を再認識しました。練習中うまくいかなかったときには直後に失敗した原因を考え，次実行するときにどのように改善するかを話し合いました。コミュニケーションをとることは自分の視点をほかの人に共有し，周りの人の視点も共有することができるため，原因の解決や次の連携につながります。バスケットボールのみならず，何かを成し遂げようと計画，実行，確認を繰り返し成果の精度を高めるためには，客観的視点からの意見が重要だと感じました。飛沫が新型コロナウイルスの感染経路と言われコミュニケーショ

ンが取りづらい環境になりつつありますが，何においても解決策はコミュニケーションから得られるのではないでしょうか。現在，オミクロン株の流行により部活動ができない状況ではありますが，次なる目標に向かってコミュニケーションを大事にして欲しいです。

最後に，女子バスケットボール部の存続の危機に見舞われたとき，次の世代が難なく部活動できるようにと女子バスケットボール部を繋いでくださった先輩，コロナ禍でも大会を開催してくださる運営の方々，私たちが健康で安全に活動ができる環境を作ってくださる学生課や先生方，忙しい中，常に部活動を支え，私たちを応援してくださる小林先生と渡辺先生，準優勝まで導いてくださった藤巻さんと三島先生，学年に関係なく仲の良い後輩，かわいいかわいい２人のマネージャー，私は誰よりも恵まれた環境でバスケットボールをプレーできたことに感謝しています。５年間ありがとうございました。

『第 52 回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会』

ラグビー部顧問　一般系 教授　浦田 清

今年もコロナ禍の中，なんとか練習を積んで地区予選を勝つことができ，神戸で開かれた第 52 回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会へ 34 年連続 45 回目の出場をして来ました。コロナ禍で大会開催が危ぶまれましたが，無観客試合，選手や顧問等関係者の体調チェックの報告など感染対策を徹底することで大会開催が認められ例年通り大会が開催されました。神戸に１週間以上遠征するにあたっては，部員の行動制限，体温測定を徹底し何とか無事に遠征することができました。そのような状況の中でも部員は気持ちを高め，勝利を目指して一丸となっていました。

今年も暮れに函館を出発して神戸高専のグラウンドを借りて練習を積み，全国大会初戦に備えました。１月４日の１回戦は東北地区第２代表，全国大会初出場の仙台高専広瀬キャンパスとの対戦でした。今年は部員数が増えましたが，ラグビー経験の足りない部員が多く，また，練習試合の機会も限られ不安要素を抱えての大会でした。それでもフィジカル面での有意さを発揮することができ，36 対０で５年ぶりに初戦突破をすることができました。２回戦では近年力をつけてきた中国地区第１代表の津山高専との対戦でした。試合は，やはり，函館高専の練習不足，経験不足のためミスが多く出て，０対 53 で負けてしまいました。

今回の大会は，各地区でコロナ禍の対応が異なり８月，９月に部活動が可能だった地区がいくつかあって，チーム作りに差があった感じがします。その結果としてシード校常連の高専が１回戦で敗れるなど波乱のあった大会でした。函館高専もチームの活動が６月までは順調でしたが，その後の部活動休止期間が長く，活動再開が 10 月以降で練習試合をする機会も少なく，チーム作りに苦労することになりました。それに加えて我がチームは部員が揃わず，部員勧誘から始めなければならず，集まった部員はラグビー経験のない部員ばかりで，何とかラグビーの試合をすることができるようになることでやっとの状況でした。試合に負けることは当然のことでしたが，やはり悔しさが残ります。大会が終わって多数の５年生が抜け，また部員不足となり部員確保が急務な状況になりました。選手は大敗の悔しさを感じ強くなろうと気持ちを新たにしていますが，一刻も早くコロナ禍が去って欲しいと思うばかりです。

『高専ロボコン 2021 北海道地区大会を終えて』

ロボット研究会顧問　生産システム工学科 准教授　鈴木 学

令和３年 11 月７日(日)にオンラインにてアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2021 北海道地区大会が開催され，道内４高専７チームが参加し，本校からは高学年中心の A チームと低学年中心の B チームが出場しました。

今年のテーマは，「超絶機巧（すごロボ)」で，学生たちがこれまで培ってきた知識や技術をもとに，すごい技術的な能力（ワザ）を持つロボットを製作し，１チーム約２分間のパフォーマンスを披露するものです。今年は函館開催でしたが web 会議システム（Zoom）で接続し，10：00 からの約２時間，YouTube を用いたライブ配信による一般公開と同時進行で大会が開催されました。

本校 A チームは，冷却されて白くみえるほど圧縮した空気を放つ空気砲を備えた移動ロボットと全方向移動と上下に的を動かせる的ロボットの２台を製作し，「空気砲による的当て」を披露しました。また B チームは，床に置かれたボールを近年いろいろな場面で耳にするようになった AI を用いて検知認識し回収するロボットとそれを動かすアプリを製作し，「カメラ付きロボットによる物体自動識別」のパフォーマンスを披露しました。

パフォーマンスの得点は，１チーム終える毎に５名の審査員各８点の合計 40 点満点で採点され，その得点を受けて優勝，準優勝が決まるもので，従来の予選，決勝というものはありませんでした。本校 A チームはアイデア賞と特別賞（本田技研工業株式会社）を，B チームは技術賞と特別賞（田中貴金属グループ）を見事に受賞しましたが，惜しくも全国大会出場を逃しました。

今年は昨年度とは異なり例年どおりの時期にルール発表がされ，前回大会に参加したノウハウを活かしオンライン大会になる可能性も頭に入れながら活動をしていました。今年度から福利棟２階の改修のため，使用していた部室の代わりに創造工房の隣の「創造工房準備室」を従来の部室のように借りることができるようになりました。創造工房で作業していたものをすぐ隣に移すこともでき，組立中のロボットを創造工房での講義時間によらずおいて置くこともでき，作業効率が非常に高まりました。それもあって研究会内の士気も高かったのですが，コロナ感染が予想以上に広がり課外活動が禁止になるなど，大幅な作業時間の減少やそれに伴う当初アイデアのオミットや変更が相次ぎ，結果，昨年度と同じように学生の負担が大きくなった大会となりました。ロボット研究会所属の１年生から５年生までが一丸となることで，なんとかパフォーマンスを見せることができるロボットが製作できたという印象です。

今年は両チームとも時間がなく「当初アイデアをどこまで削ってロボットを製作するか」という点と「絶対にココは譲れない」という点の兼ね合いで「最終的にどこにロボットの仕様を着地させるか」に苦労しながらも，最後まで諦めずのロボットを製作し続けたと思います。そのいい意味での「諦めの悪さ」によって，今回の地区大会で他の高専とは異なり，両チームとも一定のパフォーマンスを失敗することなく披露することに繋がったと思います。また，全国大会出場は逃しましたが両チームとも上位に食い込むことができ，大会当番校の面子は汚さずに済んだと思いますし，今回の状況でこの結果を残せたことを誇るべきだと思います。

ちなみに，どのくらい諦めが悪かったかというと，A チームの空気砲は大会前日(11/6)の夜まで作業を続けていましたが空気を発射することができていませんでした。１週間前の試射の段階ではできていたのですが，本番形式で動かしてみるとさっぱり動きません。夜まで粘って原因究明をしてもわからず途方に暮れながらも，どうしても諦めなかったチームリーダが大会当日朝６時から作業を開始し，なん

と８時に空気を発射することができました。発射できない原因が周囲の温度低下で空気砲内の油の粘性が高まったためというところまで突きとめていました。本番でちゃんと空気砲を発射できた後，彼らも私も泣きました。是非，この諦めない心と冷めない情熱を部内に広めるとともに，出来れば前日にドタバタしないようになってもらいたいです。

さて，既に来年に向けてロボット研究会の活動は始めましたが，以前にたどり着いた，『７月までに試作機を完成できれば，北海道大会で優勝できる』という考えは変わっていません。コロナ禍でどうやっていくかは試行錯誤が続きますが，次年度も諦めない心と冷めない情熱を部員共々持って指導していければと思います。

最後になりましたが，日頃よりロボット研究会をご支援くださった多くの皆様，大会運営に携わってくださった皆様，当日応援してくださった皆様，心より御礼申し上げます。

A チームの学生とロボット
プロジェクト名：トキメキラヴァーズ

B チームの学生とロボット
プロジェクト名：Neural bot（ニューラルボット）

退職される先生から

『函館高専と共にした 24 年間』

一般系 教授 新田 一夫

縁あって函館高専にお世話になってから，とうとう定年を迎えるまでに至りました。振り返ると着任したのは 24 年前の 1998 年という年でした。引越のドタバタと長野五輪が重なり，道央自動車道はまだ長万部までで，そこから函館までが遠かったことを覚えています。

函館は初めてと言ってよい土地で，それまでは青函連絡船の待合所か，駅前の棒二森屋くらいの印象しかありませんでした。そんな函館に来たばかりの頃に購入した「函館ウォーカーズマニュアル」というガイドブックが，研究室の本棚の隅に残っていました。当時の函館にはまだ西武デパートがあり，駅前にはシネコンではない普通の映画館がまだ何館かあります。東京の「ぴあマップ」のように，こんなガイドブックがあること自体が都会に思えました。今はその西武デパートどころか，「棒二さん」もなくなってしまいました。

そんな 24 年前から現在に至るまで，函館高専は大きく変わってきました。着任当時はまだ古き良き高専が色濃く残り，良い意味でも悪い意味でも，学生は自主性と自己努力のもとで放任されていました。それまで高校の教員であった者にとっては，戸惑いを覚えることもありました。

その後，まもなく独立行政法人化という荒波が押し寄せ，それからは時代の大波小波に揉まれながら，高専は変わり続けてきました。今や古き良き高専というよりも，常に変革が求められているのが高専です。放任されていた学生も，今は手厚い支援体制が求められています。

先程のガイドブックのあった本棚の片隅に，同じく埃を被った「函館工業高等専門学校職員録」という小冊子もありました。当時は毎年作成されていた「職員録」で，在職する全教職員の住所と電話番号などが掲載されている冊子です。今から思うと，そんなものが配布されていた時代もあったのかと思わせてくれる遺物です。個人情報というものに対する考え方だけからも，これほど時代の変化があったのだと実感させられます。

そんな 24 年間であったことを思うと，函館高専が変わらなければならなかったのも当然のことと思えます。おそらく，函館市の変わり様よりも，もっと大きな変化を遂げてきたはずです。さらに，これから数十年後の函館高専はどうなっているのでしょうか。函館市の変貌と同様，あるいはそれ以上に想像もつきません。

そんな変化を思う中，忘れてはならないこともあります。本校に入学する一人一人の学生にとっては，函館高専はそのときだけの函館高専であるということです。毎年，義務教育を終えたばかりの多くの学生を迎えますが，彼ら一人一人にはそれぞれの未来とそれぞれの成長の仕方があります。学生も時代も変わっていくでしょうが，その時々の一人一人の学生の成長を支えていく場，今後も函館高専がそのような場であり続けてほしいと願っています。

新任職員の紹介

氏名：田中 亮輔
①転入年月日：令和４年１月１日
②所属・職名：学生課教務係 一般職員
③趣味：料理，バスケ，テレビゲーム
④抱負など

１月より学生課教務係にて勤務しております， 田中亮輔と申します。生まれも育ちも前職場も釧路であり，本採用がきっかけで初めて函館を訪れましたがとても住みやすい環境だと感じました。

まだまだ覚えなければいけないことがたくさんあり力不足ではありますが，一日でも早く信頼され役に立てる職員となれるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

函館高専地域連携協力会の取り組みについて

函館高専地域連携協力会は，設立時は函館高専 OB を中心にスタートし，会員企業による合同企業説明会の開催やロボコンや各種イベントへの支援を通じて学生の皆さんと学校の応援団として活動しています。

今回は協力会の取り組み一部をご紹介させていただきます。

１．半世紀の時を経て，正真正銘の函館の地酒「五稜」の誕生

協力会設立当時から協力会幹事の中で「いつかは函館の米と水を使って函館の蔵で醸された日本酒を母校がかかわる形で世に出したい！」との話をしており，いつしかそれは協力会の夢となりました。この夢を持ち続け当協力会初代会長で五稜乃蔵代表取締役である漆崎照政氏（M-7）を中心に，様々な困難を乗り越えついに 2022 年 1 月 28 日 五稜乃蔵（函館市亀尾町 28）から蔵のある亀尾地区で栽培された酒米「彗星」を使用し，すっきりとした味わいでとても飲みやすい「五稜 純米生」が発売され，まさに正真正銘の函館の地酒が半世紀の時を経て誕生しました。

また，蔵の中には函館高専醸造ラボが併設され，高専生の学びの場として活躍が期待されています。

様々な困難を一つ一つ乗り越えて夢を実現した先輩たちが学んだ函館高専であることを皆さんと共々に喜びあえればと思います。

学生の皆さんは 20 歳になってからとなりますが，母校の先輩が醸し出す函館のお酒を将来ぜひ楽しんでください。

函館五稜乃蔵

五稜 純米生

２．合同企業説明会の開催

毎年３月に地域連携協力会主催の会員企業による合同企業説明会を開催しており，開催方法はコロナ禍により２年連続でオンラインでの開催となりました。毎年会員企業が 100 社ほど参加されますので，学生の皆さんにおかれましては，ぜひ多くの企業の生の声を聴いていただき将来の参考にしていただければと思います。

函館高専地域連携協力会 Web サイト

https://hakodate-ct-cooperative.jp/

学校だより　第 213 号
発行　函館工業高等専門学校広報委員会
〒042-8501　函館市戸倉町 14 番 1 号
TEL：0138-59-6491　FAX：0138-59-6330